

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	日本における居住地の社会経済状況と腎機能低下の関連 —国際疫学会での研究発表と国際交流
氏名 Name	石村 奈々
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	医学研究科・医学専攻・博士課程4年
渡航国 Country	南アフリカ共和国・ケープタウン
渡航日程 Travel schedule	2024年9月19日 ~ 2024年9月30日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

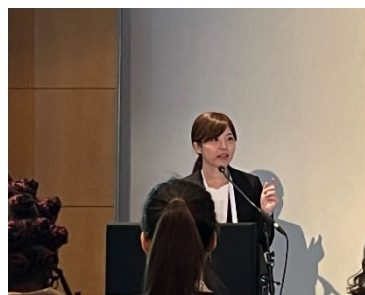
申請者は腎臓病における健康の社会的決定要因および健康格差について研究を行っている。今回は、南アフリカ共和国・ケープタウンで開催される国際疫学会（World Congress of Epidemiology 2024）に参加し、自身が日本で得た研究成果を発表し、海外の研究者と議論を行い、考察を深めること。また関連のあるセッションやワークショップに参加して様々な国の研究者の発表を聞き、第一線の研究に触れ、英語でのコミュニケーション能力を向上させると共に研究者としてのネットワークを拡張させることを渡航の目的とした。

成果 Outcome

(1) 研究発表

まず、会議の2日目に開催されたSocial Epidemiologyのセッションで、“Neighborhood Deprivation, Rurality and Impaired Kidney Function in Japan: a nationwide cohort study”の題目で口演発表を行った。本研究は日本における居住地の社会経済状況（近隣剥奪≡地域の貧困度、および僻地度）と腎機能低下の関連について、約550万人の全国規模の被保険者データを用いて検討したものである。

研究室内の予演で得た意見をもとに発表スライドに改善を加え、練習を重ねて本番に臨んだ。多少の緊張はあったが、視線を高く保ち、ボディランゲージも交えながら、伝えることを意識して話す事が出来た。質疑応答も無難に終え、セッション終了後はイギリスやデンマーク、南アフリカの研究者と互いの研究について話し合い、特に同じ領域の同世代の女性研究者と交流できたことは喜ばしい経験であった。セッションには多くの聴衆が参加され、発表後に何人かの研究者から質問や感想をいただいた。国・地域によりそもそも置かれている社会状況が異なり、日本では長く続く皆保険制度も当たり前ではなく、抱える課題も異なる。それを踏まえた上での考察と情報発信、研究の進展が必要であることを、経験を以って再認識できた。今後の論文執筆と新たな研究計画に向けて、非常に有意義な機会となった。

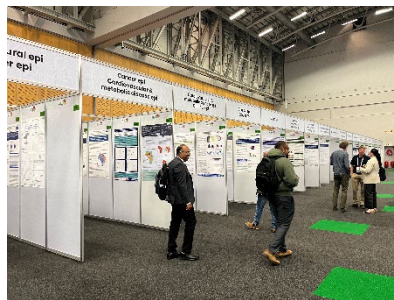


(2) セッション・ワークショップへの参加、ネットワーク形成

上記の研究発表のほか、Social EpidemiologyやCardiovascular epidemiology、Lifecourse epidemiologyなどの口演セッション、会議初日に開催されたImplementation Scienceのワークショップ、Non-Communicable Diseaseの国際トレンドに関するシンポジウム、各国の研究者によるポスターセッションなどに複数参加した。自身の研究と関連のある領域を中心に最先端の研究トピックや解析手法を学び、世界で使用されているデータリソースの種類や特徴の情報を得た。また研究者とのネットワーク形成にも積極的に取り組み、その場での意見交換と連絡先交換を行い、今後の共同研究や留学に向けて重要な1ステップとなった。日本国内の研究者ともより密にコミュニケーションを取ることが出来、この点も今後の研究活動にプラスになると感じている。更に、英語でのコミュニケーションやプレゼンテーションに関して学ぶ点も多く、聴衆を引き付けるスライド・ポスター構成について様々なアイデアを得ることが出来た。語学力に関しては不足を感じ、より高いレベルでの議論を目指し努力を続けたいと考えている。



会長講演



ポスター展示場



日韓の研究者での食事会

今後の展望 Prospects for the future

今回の渡航は、自身にとって初めての海外開催の学会参加であり、オンサイトならではの学びを数多く得ることが出来た。プレゼンテーションスキルに関しては、直近の学会発表や学位審査会に早速活用し、研究室の同僚にも情報を共有していきたい。また、今回発表した研究内容に関しては、得られた学外研究者からのコメントを参考に年度内に論文執筆を進めていく。更には、今回得た様々な情報をもとに、今後よりインパクトの大きな研究を遂行していくための戦略を考え、世界にとって必要なエビデンスを意識しつつ、研究計画を立てていきたいと考えている。申請者は今後アカデミアとしてのキャリアを進む予定で、ポスドク留学も視野に入れており、今後も積極的に国際交流を進め、世界で活躍できる研究者になれるよう努力したい。最後に、このような貴重なご支援に、心より御礼申し上げます。